

ことはあまり知らないと考えられる。「おにいさん」といっているのです、20才前、15才よりは、上と思われる。

◇ つぎのぶんしょうをよみあとのとくにこたえなさい。(会話から気持ちをよみとる)

かっぱ (東書 2年上より)

とうきょうから おきやくに きている
おにいさんの ところへ こうちゃんが は
しって きました。こうちゃんは、ぎると
バケツを もって いました。

「おにいちゃん、一本ばしへ 行かない」

「何か 魚が とれるのかい」

「うん、どじょっこに えびっこ、それ
にかっぱ」

「えっ、かっぱ」

おにいさんは、こうちゃんの うしろに
ついて、むぎの ほなみの ゆれる こみち
を いそぎました。

(1) 「何か 魚が とれるのかい」と い
ったのは だれですか。

(2) 「うん、どじょっこに えびっこ そ
れにかっぱ」と いったのは だれ
ですか。

(3) 「えっ、かっぱ」と いった ひと
は、どんな きもちだったのでしょうか。

(4) <むぎの ほなみの ゆれる こみち
を、いそぎました。> と かいて あ
りますが、このとき、ふたりは、どん
なことをかんがえて いたと おも
いますか。

・ おにいさんは

・ こうちゃんは

㊦ 誰のどんなことばに対してのものであるか読みとること。

- こうちゃんに対して発したことばである。
- そのこうちゃんは、おにいさんのところへ、走ってきたのである。急いでいるのである。「ぎる」と「バケツ」をもっている。おにいさんは「ぎる」は、魚をすくうためのもの、「バケツ」は、すくった魚などを入れるものであることを、見抜いたに違いない。
- こうちゃんは、気負って、「おにいちゃん、

一本ばしへ、行かない」という。これは、「いきましよう」のさそいである。「いこうよ」の意である。「一本ばしへ、行かない？」となっていればよいのだが、「行きません」と、打消しに読みとったのではいけない。

- 「何か魚が、とれるのかい」 そんな、ぎるや、バケツを持って? 「一本ばし」は、橋のかかっている川をさしている。橋のまわりの場所をいっているわけである。そこは、かっこうの、どじょうすくい場所であり、幾度かそこでどじょうや、えびなどをすくっている。こうちゃんは、きょうもたぶんとれることを知っている。「何か～」の文には、おにいさんが、こうちゃんをからかっているようすもでている。
- これに対し、こうちゃんは、すなおなものである。「うん (とれるよ)どじょうもとれるし、えびもとれるし、それにかっぱもとれるんだよ」と答えている。こうちゃんにとって、「かっぱ」は、どじょうや、えびと同じレベルのものとしてとらえられている。

○ だが、にいさんの描いた「かっぱ」は、こうちゃんのそれとは同じものではない。こうちゃんのかっぱは、「たがめ」であり、にいさんのかっぱは、「河童」である。このくいちがいを児童達は読みとらねばならない。

以上のことをふまえて、「えっ、かっぱ」を解釈しなければ、気持ちの読みは充分とは言えない。だから、「ぎる」とか、「河童」についての知識も大切である。

・河童について 知っているもの14名。知らないもの36名。 ・ぎるについて 知っているもの32名 知らないもの10名。これからみると、気持の想像に思い違いなどでてくるのが当然考えられる。

- おにいさんは、「かっぱ」ときいて、一瞬、えっと驚く。ほんもののかっぱであるわけではないがと思う。何しろ、ぎるですくうことのできるものなのだから。それで、興味を呼び起こされ、たしかめてみたいと思い、こうちゃんのとをついていくのである。